

——第3号執筆者紹介——

杉村 靖彦 京都大学大学院助教授  
加藤 希理子 京都大学大学院博士課程  
長谷川 琢哉 京都大学大学院博士課程  
川口 茂雄 東京大学特別研究員

(掲載順)

\*\*\*\*編集後記\*\*\*\*

このたび「宗教学研究室紀要」第三号を発行することとなりました。今号では三篇の研究論文および、一篇の書評を掲載しています。執筆者各位のご関心のもと、さまざまな論考がお寄せ頂けましたことに、この場を借りて感謝の意を表したいと思います。

さて本研究室紀要は、かならずしも従来の研究スタイルにとらわれることなく、宗教哲学のアクチュアルな可能性を自由に探究する場所として設けられたものです。それゆえ内容的にも形式的にも、多様な試みが可能であり、また要求されてもいます。今号に掲載されました杉村助教授のご論文からも窺えますように、現代においては「哲学」にしる「宗教」にしる、それを語るための確固とした場所など存在しそくにありません。そうである限り、宗教哲学に関わる研究者はそれぞれが手探りで考察を行なう以外にないでしょう。次号以降も、多くのご寄稿が頂けますよう切に願う次第です。

長谷川琢哉記)

宗教学研究室紀要(京都大学文学研究科宗教学専修編)

2006年8月発行